

流山稻門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和七年十二月句会（第一六三回）
兼題【寒鶴】

開催日 令和七年十二月二十七日
開催場所 流山市生涯学習センター

出席者 七名
投句者・選句者 七名

駅前のこだわり酒場鍋囲む
跪き見上げ見下ろす床紅葉
仏壇をほかす断捨離年の暮
襦袍着て机に向かう夜は更けて

【三点句】

寒鶴人間世界睥睨す
跪き見上げ見下ろす床紅葉

【二点句】

寒鶴鳴く柝の音響きおり
電線の寒鶴茜に染まりけり

【一点句】

寒鶴鋭い目つきで吾見つめ
冬木立イルミネーション自撮りして

豪雪に知るや人生曲がり角
再稼働容認の記事冬ざるる

寒鶴鳴き吾も寂しき夕間暮れ
熊穴に入る気配なく季語遷り

冬木立イルミネーション自撮りして
ビール街に灯ともし夕べ枯木映え

寒鶴食ベ物需め庭に二羽

寒鶴ラッショの朝を眺めをり
お歳暮の送り手減りし老夫婦

寒鶴のど飴一つあげましょ
公園の散歩落葉を踏み分けて

寒鶴の眼底なしのよう目を逸らす
公園の散歩落葉を踏み分けて

寒鶴の眼底なしのよう目を逸らす
今年を振り返ってみると会員の投句率

選評

互酬

【四点句】

●舞う枯葉へッドライトに金の波 柳花

秋から冬にかけて、木々は葉を落とし又、
新しい息吹を迎える為に身に纏つてきたエヌ

ルギーの基の葉を一旦整理する。

その木にとつて大切であったものを作者は

運転しながら我にかかる枯葉を「金の波」と

表した。実にお洒落な、素敵な表現を用いた

のである。きっと作者は、日々美しい心で、
の物の見方を出来る方なのである。吾も心で

したいものである

【四点句】

●木枯に薔薇の時は止まりけり 柳花

時はすべての命あるものの上を等しく流れ

ていく。薔薇はやがて花開くべく命の営みを続

けているが、木枯しが吹いて一瞬成長を止め

てしまつたというのである。花開かず、薔薇の

ままに枯れてしまうのか、その後小春日和が
続いてめでたく花を咲かせるのか、気になる
ところである。薔薇の時という表現がユニーク
である。今年は秋晴れが続いて気温の高低の
差が大きかったよう思う。

【五点句】

●ふんわりと日向の屋根に寒鶴 柳花

ふんわりと日向の屋根に寒鶴、通常
は真っ黒い身体、とがった唇、鋭い目
つきと接することの多い鶴が今はおそ
らく、つがいで屋根の上でゆつたりと
過ぎています。

たっぷりと日を浴び、にこにこと落
ち着いている。その情景が浮かんでき
ます。

選評 夢心

秋から冬にかけて、木々は葉を落とし又、
新しい息吹を迎える為に身に纏つてきたエヌ

ルギーの基の葉を一旦整理する。

その木にとつて大切であったものを作者は

運転しながら我にかかる枯葉を「金の波」と

表した。実にお洒落な、素敵な表現を用いた

のである。きっと作者は、日々美しい心で、
の物の見方を出来る方なのである。吾も心で

したいものである

【四点句】

●ふんわりと日向の屋根に寒鶴 柳花

ふんわりと日向の屋根に寒鶴、通常
は真っ黒い身体、とがった唇、鋭い目
つきと接することの多い鶴が今はおそ
らく、つがいで屋根の上でゆつたりと
過ぎています。

たっぷりと日を浴び、にこにこと落
ち着いている。その情景が浮かんでき
ます。

【句会後記】

令和七年も余すところ今日の句会を含
めて五日で新しい年を迎えます。

今年を振り返ってみると会員の投句率

について、ほぼ大半が出句して来たよ
うに思います。

これは、日々の生活において作句する
強い意志を持たないと大変な重荷になる

ことだと考えます。と、言うことはそれら

を超える魅力が「ゆずりは」のこの会には

あるということです。

良い集まりにはお互に尊敬し引き合

う何かがあると思います。来年もお互い
に引力を持ちながら投句・選句・句会を

互酬（菅原）